

体と心の性が異なるトランスジェンダーの人向けの下着を、大阪市の支援団体と、中小の下着メーカーでつくる「ひこね繊維協同組合」（滋賀県彦根市）が共同開発し、3日、特許申請した。「既製品だと体が締め付けられる」といった悩みを持つ当事者たちが、開発に加わった。

トランスジェンダーは、性同一性障害と呼ばれ、ホルモン注射や性別適合手術を受ける人がいる。既製品の着では、体の線が不自然に見えたり、違和感があったりする課題があった。

トランスジェンダーの人の支援団体「LGBT（エルジービッドットティー）」（大阪市住吉区）が今年初め、繊維協同組合に共同開発を提案し、組合も「大手

心の性と異なる体美しく

開発された下着を試すトランスジェンダーの人たち（大阪市内で）



にはない製品を作ろう」と応じた。「LGBT」はトランスジェンダーの約50人にアンケートし、組合は試着してもらって改良を重ね、パンツやシャツなどの製品化にこぎつけた。

心の性が男性用のランニングシャツは、腹回りが細い女性の体を考慮し、腹部の布を厚くして、がっちり

支援団体など 下着開発、来春販売

した体格に見えるよう工夫。心の性が女性の人のブラジャーは、男性の胸板の厚さを計算してデザインした。

11月18日には開発に協力した人の試着会があった。心の性は男性で約10年前からホルモン注射を続ける奥州幸栄さん（39）（兵庫県尼崎市）は「既製の男性用シャツだと肩などが合わなかったが、きれいに見える。理想的です」と話した。

今後、専用サイトを開設して来年4月からネット販売を始める。「LGBT」の代表理事でトランスジェンダーの麻倉ケイトさんは「体の悩みはつきまとうが、身も心も軽くなって、もっとおしゃれを楽しめる人が増えてほしい」と話す。